

ChatGPT

中島八十一

自動車の發明により人の移動速度これ人類の自走速度を遙かに上回れり。今日その事實を疑問に思ふ者なし。さあれどオリンピック陸上百走米には天下熱狂す。飛行機の發明により空飛ぶ術持たざる人類の大空を幾千キロ飛翔するも不思議に思ふ者なし。生成AIの文章作るもわずかな年月のうちに當たり前になるらん。なんぞ憂ふるに當らむや。

余一時手話通譯士の養成校にて教鞭取りたるに、毎春入學試験にて面接官をも擔ひたり。ある年受験したる若き男實にユニークなる主張し居り。述ぶるところ聾者と健聽者隔つる最も大なる障壁用ゐる言語の違ひならん。よつて本邦にありては共通言語の第一を手話とし、音聲言語を補助言語に定むべし。而して聾者と健聽者の境杞憂の産物になるらん。まことに絶えて考ふることなき名案に覺ゆれど、續く余の質問受験者直撃す。「君述ぶるところまことに正論なれど盲人にありて手話いかにして見ること可能なりや」。「わ、わ、わ、そは考へざりし」受験者兩の手にて頭髮搔きむしりたり。余「また來年來られよ」受験者「いかにも、さあるべし」。

そも人はものごと考ふるに言語驅使してこれに當たれり。しかるに健聽者使用する音聲言語と聾者の手話比ぶるに言語としての性質著しく異なれり。手話に二通りあり。すなはち日本手話と日本語對應手話にて、生來の聾者日常に用ゐるは日本手話なり。日本手話の日本語對應手話と異なり、手話と云へども身體各所の動きこれすべて文法的意味あり。顔の向き、腕の位置、胴の向きこれらすべて文法的意味もち同時に表出すれば、乃至のビット情報として受け取り側に伝ふ。主語、目的語、疑問符等々を一度に提示すると思へば實態に近し。日本語對應手話の音聲言語としての日本語をそのまま手振りに置換せるは一ビット情報なり。そのゆゑに日本手話を第一言語とする聾者と健聽者それぞれの思考法の間に容易には埋め難き溝横たはれり。因みに盲人と晴眼者の間にかかる溝なし。同じ音聲言語を用ゐるに思想上論理の組み立てに變はる點なし。

ChatGPT 使用せるは音聲言語のいはゆる日常言語による思考そのものなり。してその思考法のAIと言へども大多數の人間と何ら變はるところなし。しからばいづくの者事前にchatGPT 教へたるも、回答一層強化するも、chatもたらず回答の質凡庸を超ゆること難し。不立文字の一言示す言語を超ゆるところに悟りありとせば、chatGPTの産物に依據して悟りに辿り著くこと初より求むることにあらざるなり。それともAIに理を超ゆる思考法の身に付く日の來むや。

(令和六年四月一日受附)